

# GTC Japan 2012 参加報告

大島 聡史

東京大学情報基盤センター

本記事では2012年7月26日に開催されたGPU TECHNOLOGY CONFERENCE JAPAN 2012(GTC JAPAN 2012、以下GTCJ2012)について報告する。

GTCJ2012はエヌビディア ジャパンと東京工業大学 GPUコンピューティング研究会が共催するGPUコンピューティング(GPGPU)のイベントである。昨年も同時期に同様のイベントが開催されており、本スパコンニュースでもVol.13 No.5にて参加報告(GTC Workshop 2011参加報告)を掲載しているため参考にしていただきたい。

GTCJ2012は昨年と同様に六本木で開催された。昨年は東京ミッドタウンのホールが会場となったが、今年はホールに加えて上階にあるカンファレンスルームも会場となった。参加者数についても昨年の900人強を上回る約1200人を数え、GPUコンピューティングへの注目がますます高まっていることが伺えた。

イベント内容としては、NVIDIAによる基調講演を始めとして、スポンサー企業を中心とした講演・チュートリアル・有料のトレーニング・ワークショップ・展示、さらにGPUコンピューティング研究会主催のテクニカル・セッションにおける口頭発表やポスター展示が行われ、またCUDAに関するセッションだけではなくOpenACCに関するセッションも行われるなど、バリエーションに富んでおり、昨年に比べて講演数自体も大きく増加した。開催日が一日のみという点については変わらないため、同時に開催される講演の数が大きく増えたかたちとなる。(最大で9セッションおよびポスターセッションとスポンサー展示が同時に開催されていた。)聞きたい講演が同時に開催されるデメリットもあるが、上述のように様々な種類の講演が開催されたため、1200人という多数の参加者に対してもニーズを満たせたのではないだろうか。

基調講演ではNVIDIAのTesla部門CTOであるSteve Scott氏が登壇し、最新のGPUアーキテクチャ(Kepler)に関する情報や、GPUを搭載したモバイル製品の話、そして研究事例などについて講演を行った。スーパーコンピューティング関連の話題としては、既報ではあるが、米国のORNL(オークリッジ国立研究所)やNCSA(国立スーパーコンピュータ応用研究所)が最新のGPUを搭載したスーパーコンピュータシステムを構築していることが紹介された。これらのシステムは今年11月のSC12におけるTOP500での登場(一位獲得もしくは上位入賞)が期待されている。またGPUに関連する研究活動を進めている筑波大学の朴泰祐教授と東京工業大学の青木尊之教授がそれぞれ登壇し、最新のGPU研究に関する情報提供を行った。

昨年は移動に苦勞するほどの盛況となったポスター展示では、発表件数がさらに増加し(昨年17件、今年23件)、昨年同様に盛況となった。昨年に引き続き、対象とするアプリケーションや分野が幅広く活発なポスター展示であった。本センターからも本記事の著者である大島が中心となりGPUを用いた数値計算に関するポスターを展示した。動画や可視化に関する研究展示と比べると、内容の都合上、視覚的に見栄えのするポスターではなかったものの、多くの方に我々の研究を知っていただき、また意見交換することができて、有益なポスター展示となった。

今回は同時開催されるセッション数が多く、またその他の都合もあり聴講できなかったセッションも多かった。しかし、初学者から上級者まで多くのGPUコンピューティングユーザにとって有益なイベントになったと思われる。